

令和元年度 第1回芦屋市立美術博物館協議会 会議録

日 時	令和元年9月19日(木) 14:00~16:15
場 所	芦屋市立美術博物館 講義室
出 席 者	<p>会 長 藪田 貫 副会長 岡 泰正 委 員 飯尾 由貴子 委 員 中島 幸夫 委 員 若林 敬子 委 員 臼田 由香 委 員 安部 太一郎 委 員 星野 剛一</p> <p>(芦屋市立美術博物館指定管理者) 館 長 石井 茂(株式会社小学館集英社プロダクション) 学芸員 室井 康平(株式会社小学館集英社プロダクション) 株式会社小学館集英社プロダクション 長滝 恵里 グローバルコミュニティ株式会社 青木 大介</p> <p>(事務局) 社会教育部長 田中 徹 生涯学習課長 茶嶋 奈美 生涯学習課文化財係長 竹村 忠洋 生涯学習課 石田 直也 生涯学習課 石田 秀夫</p>
事 務 局	生涯学習課
会議の公開	■ 公開
傍聴者数	0 人

1 会議次第

- (1) 社会教育部長あいさつ
- (2) 委嘱状交付
- (3) 議題
 - 1) 展示状況について
 - 2) 平成31年度事業計画について
 - 3) その他

2 提出資料

- 資料1 会議次第
- 資料2 委員名簿
- 資料3 芦屋市立美術博物館2019年度展覧会予定
- 資料4 芦屋市立美術博物館2019年度入館者数内訳
- 資料5 芦屋市立美術博物館運営基本方針
- 資料6 【事業報告書】芦屋市立美術博物館管理運営基本方針に沿って

3 委嘱状交付

令和元年5月17日から令和2年12月15日までの2年間の任期とする。

4 審議内容

(藪田会長)

それでは、お手元の次第に従いまして、議題の(1)展示状況について事務局より説明をお願いします。

(事務局：竹村係長)

展示状況について、只今開催しております企画展についてご覧いただきたいと思いますが、お手元にあります芦屋市立美術博物館運営基本方針、こちらの作成には前の任期の委員の皆様にご尽力いただき、平成30年4月に改定しております。今の社会ニーズや美術博物館、あるいは芦屋市の文化行政に求められているものも含めまして、簡潔にわかりやすくまとめることにも努めました。一方で、せっかくこれを改定したのだから、これに基づいて館が運営されないと意味がないため、事務局としましても、この運営基本方針を順守し実現するということで、指導あるいは監督している現状であります。今回も指定管理者が、運営基本方針のどこに沿って、意識して館を運営しているのか、今からの展示状況の確認でもどこが基本方針に沿って進められているのかというポイントも説明させていただきます。

それでは、只今から実際に展覧会を見ていただきまして、ご意見など頂きたいと思います。

……………<展示室へ移動、企画展の説明>……………

(事務局：竹村係長)

今回の展示で運営基本方針のどのようなところがポイントとなっているのか、指定管理者から簡単に説明頂きます。

(室井学芸員)

今回の展覧会、「こどもとおとな これ、なににみえる？」ですが、一番のターゲットとして、親と子ども、夏休み期間ですので、お子さんと親御さんで、楽しく展覧会が見れるというようなコンセプトを持った企画を練りました。実際、8月の夏休み期間はお子さんを連れた親御さんであったり、後は中学生達だけで来たりということで、かなりターゲットになった年代層も来てくれたと思いますし、「美術が全然わからなくても楽しめましたよ」というような意見も数多く頂

戴しました。そのようなコンセプトで、すごく満足度が高かったんじゃないかなと感じております。後は、お子さんが見やすい目線に変えたり、わかりやすいキャプションを作ったりということを少しやってみました。その効果が少しは出てきているのかなと感じております。

(藪田会長)

どうぞ、ご意見をお願いします。

(岡副会長)

素材をテーマとして出すという風に聞いておりましたが、まずは作家略歴、その作家の何年頃の作品なのか展示作品は晩年の作品なのかということですね。作家略歴は、子どもには興味はないかもしれませんが、やっぱりそれは入り口なので、簡単な作家略歴は必要かと思います。それで、この人に興味があるとか、元永定正さんに興味があるとかという風な。目玉はやっぱり元永定正さんの具体の時の松林で吊した作品の再現だと思うんですが、非常に記念的な再現なので、やっぱり何か説明がいるのではないかと思います。自らの館が所蔵する具体美術と小出檜重ということで、芦屋の美術と言うところの側面は、縦軸で抑えないといけないと思っています。そうすると、具体の作家とその後交流された関わりのある作家の作品とか、それでいける部分と、いけない部分があるんですね。キネティックアートも、素材の問題だけでなく、キネティックの音が会場に響き渡ると小出檜重を見ようとか何か作品を見ようという時に、音が工事現場にいるみたいな気がします。私は展示屋なので、美術館で静かに見せる時はやっぱりキネティックはちょっとどっかに移さないといけないなと思います。私がいたら、音の出る作品何とかならんかと言うと思いますね。小出檜重の作品をもっとじっくり見せようよとか。着眼点はいいけれど、あれだけ大量に作品があると子どもってやっぱり疲れてしまう。子ども向けと言っていますが、キャプションの文字は小さいし、作品数ももう少し減らして、「ここを見て」と注目させるとか。今回のテーマは素材だと言ったけど、その素材から次の、これをどう感じるかっていうところが抜けているように思います。現代美術をどう鑑賞するかであって、その素材を使って、何を壊しているのかと言うか、概念を壊している、新しい表現を増やしていると言うのがあって、そこへ持って行かないと。子どもさんの視点だけでは「こんな技法を使っているんだよ」と言ったって、素材をキャンバスと油絵みたいなありきたりのものでなくて、それを使わなくても、新しい表現ができるんだと言うところに導かなければいけない。それだってどう感じるか、「気持ち悪い」と思うものもあるし、嶋本さんなんか非常に暴力的だしね。あれを子どもに「絵の具をぶつけたんです」って言ったって、理解しづらい。破壊って言うか、何か一つの概念の破壊なんですよね。それは子どもにはちょっと難しく、もうちょっとセレクトすると言うか、名品は名品で見せると言うのと、美術館としての役割とその素材というテーマ展示と言う、もうちょっと章立てを分けないと押し付けになるのかなと思います。次へアプローチが出来るように展示を持っていかないといけないし、ワークシートでこういう人ですよって配るとかですね。そのほうがお母様は勉強できると思う。来た人に芦屋の文化に触れてもらわないといけない訳で、そのアピールが足りないと思いますね。芦屋をどう見せたいとか、小出檜重と芦屋とかですね。そこへ縦軸が抜けているように感じました。もう少し整頓して、もう少し減らしてもいいと思う。ちょっと多いなと言う感じがした。キネティックは贅沢な物で音もするんで、あんなに並べる必要はないと思う。

(飯尾委員)

美術史的な情報をまずきっちり伝えるということ、もちろんそれは学芸員として押さえないといけないところだと思いますが、逆に私は、美術に対するハードルをちょっと上げてしまうような情熱、例えば作家とか美術史的な位置づけに関する情報をあえて取り除いて、いきなり素材・材料とか技法・表現といったところにストレートにアプローチした大胆な試みをされているというところが印象的でした。もちろん美術史的情報や作家の情報を含めたアプローチは必要であると思いますが、まずは美術を敬遠されているような人などに「美術って何やろうか」、「こういう表現も美術なのか」というように思ってもらえるために、そういう情報はあえて除いた、ある意味大胆な展示を試みられたのかな、と思いました。あと、こちらのホワイエの作品は非常に魅力的な場所の一つだろうなど。特に元永定正さんの再制作は、こちらの空間に非常にマッチしていて写真スポットとしても有効に活用できると思われるので、もっとアピールされてみてはという風に思いました。繰り返しになりますが、私たち学芸員は美術史な情報とかをまず伝えて、その上で作品を見てもらうというようになってしまいがちなんですが、今回の展示は、まず作品に興味を持ってもらい、何で描かれているんだろうとか、何でできているんだろうとか、これは何だろうという素朴な疑問から入って、直截感覚にアピールする構成で組み立てられており、非常に参考になりました。当館では、山村コレクション展や常設展の方でも、具体美術を展示しておりますが、割と型通りの展示になっておりますので、こういう子どもの感性に直接訴えかけるような展示というのは、一度試みてもよいかな、という風に思いました。子どもだけでなく、中学生とか高校生、大学生でも大人でも楽しめる展示であったと思いました。

(中島委員)

率直に。こどもとおとな展見たんですけど、今日は解説があったけど、お母さんと子どもが来て、お母さんはこれをどうやって説明するのかなと、そんな単純な疑問を感じました。何か抽象的な絵とかだと、やっぱり作者が何を主張しているのか、作品のテーマが何なのか、背景はどういう背景で作られた絵なのか、この意図は何なのか、そういうことが解説で書いてあるとわかりやすいんじゃないかと思います。ぱっと見て「この絵どう思う。」と言われても、どうやって表現するのかなと私は思いました。人物画だとか静物画とか、そういう物は見たら大体こういうものかなとわかるけど、抽象的な表現を子どもに見せて、どう思うって言われても、何かどういう風に表現できるのかな、どういう解説をしたらいいのかなという風に感じました。もう少し作者の主張は何だったのか、作品のテーマは何なのか、背景はどういう背景で描いた絵なのか、意図はどこにあるのか、主張する所はどこにあるのかなんていうのを教えてもらったら、もっと絵を見るのが楽しくなるんじゃないかなという風に思いました。

(若林委員)

私は、申し訳ないですが、真逆の意見です。全く説明はいらないと思います。せっかく夏休みを取り込んだこの期間に、来られた方がそれを見て自分の感性で捉えたらいいと思うんですよ。何に見えなければならぬとか、こういう技法でとか、そういう説明抜きで、それを見て自分の感性で捉えたらいいと思うんです。もっとその作品を深く知ろうと思えば、その背景、作家の背景とか、自ら勉強していくという方法もあると思います。入館者数ですけれども、4・5・6月は約一万人入っていますが、残念ながらまだ9月の統計が出ていませんけれども、一万人に

はいかないと思うんです。私、今回の展示は本当にいいなって、面白いと思いました。ですからもっと、せっかくなので小・中・高・幼稚園を含めて、子どもたちに見てもらえたらよかったなと思います。元永定正さんの再制作ですけども、今日正面玄関から入ってあそこを見上げた時に、「あっ、何か今から楽しいものが見られそうだな」って言う、何かわくわく感があつたんですね。前の会議で発言させてもらったと思うんですが、美術館に行く時は何かわくわく感がいると思うんですよ。「今日はどんなものが見られるのかな」「どんな作品に触れることができるのかな」っていうね。そういうわくわく感を醸し出すような展示の仕方が欲しいなって言う風に思います。それから今日の会議が始まってからの小一時間、ずっと皆で見るっていうのは、時間の無駄だと思います。せっかくこういう風に集まられて意見が欲しいんだったらそれは無駄です。自分で早めに来て、今の展示はどんなのかなっていうことを、じっくり見て、意見をまとめておいて、この場で発言するということが、委員としてもここに所属している者としても必要じゃないかなという風に私は僭越ながら思います。

(星野委員)

私は、飯尾委員からお話のあった兵庫県立美術館の山村コレクション展で、具体の作品を見た上で美博の展示を見ました。オーソドックスなのは、兵庫県立美術館の展示であれば、今回の芦屋の美術博物館の展示は、親と子どもって銘打っただけに本当にわかりやすく、展示されていたと思います。年寄りの私自身も見て面白いなと思いました。美術館とか博物館で、子どもさんを如何にして集客するかと考えて、ワークショップなんかをよくやるんですが、ワークショップ的な要素と言うか、面白味をうまく織り込んだ工夫された展示だなという風に、私は思いました。だからそういう意味では、如何にして子どもを取り込んでいくかっていう普及啓発的な要素を兼ねた展示だと、非常に面白い展示だなと思いました。また、子どもに「美術館は面白いところだよ」って言う刷り込みにも、非常に効果のある展示じゃないかなと思います。プロの目で見るとまたプロの、色んな要素の展示はあると思うんですけども、私はそのように思いました。

(安部委員)

私も今まで何回も来させてもらって、色んな展覧会を鑑賞してきました。何回かこの協議会に出させて頂いて、子どものワークシート、これが今回作られていたことがまず一つは良かったなという風に思います。この内容に関しても、例えば「この絵なんかでこぼこしているな」とか話口調で言葉を書いているんです。難しい書き方であれば子どもは、何書いているのかなって感じなんだけど、要所にイラストが入っているのと、言葉が優しいので、子どもたちはこのワークシートを持って、動こうと思ったら自分たちから動ける内容で書かれているのかなと感じました。キャプションにもルビがあるんですが、このキャプションの中でもオレンジで記されている言葉がありました。それは、「ここは大事な所だよ」という事でオレンジにされているんだと思います。そういう所もこれまでになかった点で良かったなと思います。ただキャプションの中で、一部の漢字はルビがなかったりした。小さい子から大人まで見てもらおうと思ったら、小さい子は多分小学校1年生なんか漢字なんかほとんどわからないと思いますので、要所要所の漢字だけではなくて、ルビを打たれるのであれば、ちょっと行的にも大変かもしれないですけど、それぞれに打ってもらえた方が、小さいお子様が来た家庭でも「見よう」となると思います。私も夏休みに自分の息子を連れて一回来ました。どんな感じかなと思って一緒に見て回っていた所、2階の

動く作品がありますよね。電動でぼこぼこ膨らんだり動く作品とか、元永定正さんの再制作の作品、きらきら光りますよね。そういった僕らが見るような視点じゃない視点で子どもは面白さを見つけたりすると思うんです。1階のボンドを膨らませて作った作品も子どもがキャプションを自分で読んで、「これボンドなんや」とか「これ面白いな」って言って、帰りの時も実際言っていました。子どもたちが自分の学校とか生活の中で、例えばボンドを使って図工の授業で何か作るとか絵の具で何かするとか、カラーの水で遊んだりするとか、そうした経験をした中で、作品を鑑賞する場面が沢山あります。この作品はこういう物で作ったよとか、小さい子にもわかりやすくルビを全部に入れてもらったりだとか、「面白いな」と思うような展示の仕方っていうのいいかなと思います。特に元永定正さんのカラーの水なんかは、外から見てもとても綺麗だと思います。臨港線からでも多分窓側に見えると思うんですよ。あれが実際に松の木を使って制作していたのであれば、外で飾っても面白いと思います。ずっと外に吊るしておくっていうのは、管理とかそういう難しい所があると思いますが、あれが館の中にあるのか外にあるのかで全然違うと思います。光の当たり方とか、光の反射とかありますので、子どもが外に出た時とか市民の方が前を通った時に、何か面白いことしているぞという風に思ってみようかっていう動機づけにもなると思います。せつかく前にいいスペースがあるので、野外で展示できるのであれば、展示できる作品は置いて、この期間中はやってみるのもいいかなと感じました。

(藪田会長)

入館者を見ていると、4・5・6月は、ほとんどが大人。7・8月は、小中学生が増えている。年間通じて大人が対象ならこれで結構ですけど、4・5・6月は、ほとんど大人しか来てないから、ワークシートはあまり作用してないんじゃないかな。大人に見てもらおう事と子どもに見てもらおう事と考えた時に、7・8月はこの企画でもいいと思いますが、4・5・6月は、どうしたのかなと思う。これだけ見事に子どもたちが7・8月と4・5・6月と違う。どこを狙うのかということですけど、基本方針に書いてある「子どもに向けた」というのが一番だと思うので、子どもと具体美術というのを結び付けようとされたという最大の意図があるんだろうと私は理解する所があるので、その所を中心に指定管理者さんには総括して頂いたらいいと思います。

岡副会長がおっしゃった、縦軸の話だけど、事業方針には、2の所で芦屋ゆかりの美術作品、資料等の継承というのがあるので、他と比較したときに、非常に中途半端だったということが、先ほどのコメントでわかりましたので、この事業方針で言うと、(1)から(5)の中の(2)と(4)、バランスの問題って言うのが多分議論されているのではないかなと思います。ですから、このワークシートでどんな答えが出てくるのか見えてない。しかも、そもそもこのワークシートは書きやすいのかなと思って。作品を見ながら書く場所ほとんどないじゃないですか。見ながら書こうとしたら、どこの場所で書いたらいいんだろうか。そういうことを考えた時に、これだけきちっとしたワークシート、書く場所を提供しないで書かせるというのはどうなのか。全部見終わってから書くとすると、もうその作品忘れていってしまうからね。実際どの程度成果が上がったのかは、子どもに主眼を置かれたんだったら、是非丁寧な分析を終わってからして頂きたいと思います。

(若林委員)

2の事業方針の(3)のイです。市民の関心が高い魅力的な展示内容って言うように謳ってあ

ります。新しい年度の事業計画，今年に限ってでもいいんですけども，色んな方のご意見を伺ったんですが，行ってみたいって思う展示内容がないって言われます。知名度が高い作家とかそういうものはまず集客できるんでしょうけれども，実際足を運んでみたら今日のような展示は，とても楽しいし面白いって思いますが，ここまで足を運んでもらうっていうのが，まず一番。展覧会名のつけ方がちょっと難しいという意見も昨年ここで出ましたよね。その辺も一考頂いて，この人だったら知っているな，行ってみたいなというような企画も，年に一本は入れて頂いたらどうかと思います。予算との兼ね合いが大変難しいと思いますけれども。浮世絵なんかはすごく人気もありますし。これなら行ってみたいっていう企画が欲しいと思います。

(藪田会長)

説明とご意見が逆になりましたが，議題の（２）になります。事務局から説明をお願いします。

(事務局：竹村係長)

それでは，（２）の平成３１年度事業計画について，指定管理者から，お願いします。

……………<資料・映像をもとに平成３１年度事業計画の説明>……………

(藪田会長)

それでは，何かご意見ををお願いします。

(岡副会長)

明後日２２日に美術博物館で，「親子で楽しむクラシックコンサート」というのがあるんですね。こちらでピアノ演奏があるのは，展示作品の前でピアノ演奏があつて親子で聞けるということですか。それとも何か違う事業ですか。

(事務局：竹村係長)

これについて簡単に説明いたしますと，会場が美術博物館になっておりますが，市の政策推進課という別の部門が，魅力発信やシティープロモーションも兼ねて，ここを会場にして指定管理者と協力して実施する事業で，指定管理者の単独で行う本来事業とは少し異なったものになっています。

(岡副会長)

美術博物館のホールで行うのであれば，作品が周りにありますね。美術博物館に親しんでもらうという，ただ会場を貸すということではなくて，何か絡めてやるといいと思います。私の美術館は，マンスリーコンサートをずっとやっていて，必ず学芸員のトークを入れています。もう要らないという人もいますが，１５分くらい絶対やっています。長すぎるといつも言われますけども。それにちなんだ音楽とか言う風にやっています。それは宣伝で，学芸員その人に親しんで頂くためにトークをやっています。せっかくコンサートがあつて周りに作品があるのに，何か美術館のアピールというか，何点か陳列されている作品について説明をするとか。僕は美術博物館がここまで営業しているのに，もったいないって思いました。作品の前で音楽が聞けるって言

うのは、すごい贅沢なことなので、そこをもっとアピールした方がいいと思います。

(事務局：竹村係長)

政策推進課という別の部署が企画・実施しており、芦屋市の文化や芸術を芦屋市の文化資源とか地域資源として活用していくという方向性がある中で、岡副会長がおっしゃったように具体的に現場で連携ができていないというのが実情なので、ご意見は参考にさせて頂きたいと思います。

(岡副会長)

場所貸しではもったいないじゃないですか。私の館のマンスリーコンサートは有料の企画ですが、150人くらい来ます。コンサートをしなかったら、来ないです。来られるかたも三分の一くらいは無料スペースに入るため無料です。でも、お金を払って見られる方もおられます。今後もしもやられるとしたとしたら、是非それは企画に割って入らないと損ですよ。幕間で説明させてくださいとか、2・3分の説明でもいいんですよ。菅井汲さんの作品を見たり、芦屋の文化に触れてくださいと。音楽と一緒に触れてくださいというアピールをした方がいいと思います。

(若林委員)

基本方針との関連資料をつけて頂いたので、今ざっと見せて頂いたんですが、(4)の子どもへの教育という所で、芦屋の小学校で足を運んでもらったのが、3校に留まっています。中でも貴重なのが神戸市立吉田小学校から来て頂いた18名ですが、せっかくの子どもにフォーカスした企画だったので、もっと芦屋の学校がこちらに来てもらっても良かったのではないかなと思います。お子様を連れて来られたというお話がありましたけど、他の学校も子どもたちを集めて連れてくるというのは、なかなか大変なことなんです。それを、朝日ヶ丘、精道、打出浜もやったださっているので感謝ですし、出来たら全校、中学も含めて来て頂いたらと思います。

(星野委員)

やはり、来館へのきっかけ作りと、子どもさんの時からの「美術館は面白い所だよ」との刷り込みが大事だと思います。今回のおとなとこどもの展示は、子どもだけでなく大人にも、きっかけ作りとして非常に良いと思います。私は文化財ボランティアとして初めて来館したことがきっかけで、美術博物館が好きになって、市民委員になりました。ボランティアとかボランティアの活動場所をどんどん作っていくのが、来館のきっかけ作りとして大切だなと思います。そういう意味では、A3の資料の「マネジメント機能の充実」の(イ)の所で、「美術博物館で活動するボランティアを育成する」、事業内容では、「歴史ボランティア組織設立を目指し計画」とありますが、大変良い動きだと思います。具体的には、どのような活動を目指されているのか、教えてください。

(室井学芸員)

ボランティア組織設立を目指し計画という所ですけども、やはり芦屋の歴史が観られる、常に観られるとなるとここの施設になると思います。具体的な中身は今考案している所ですが、年間常に歴史系の展示を行っていることもありますので、どのタイミングでも活用ができるようなものを設立していきたいと思っております。組織として単発限りではなく、10年20年先も

組織として成り立っていけるようなものを作るように、今色々と計画を練っているところです。

(若林委員)

博物って過去を動かすというか、芦屋のここはこうだったよという展示に留まるんでしょうか。今を生きる人たちがこれから生きる場所としての「芦屋」、もっと広げたら世界になりますけれども、そういうところにも目を向けた展示っていうのもあってもいいんじゃないかなと思います。埴輪とか勾玉とかを見るのも楽しいし、時代を遡るのもいいですけど、今を生きる人たちに何か訴えかける芦屋の在り方みたいな、そんな視点も取り入れられてもいいんじゃないかと思います。難しいですけど、環境問題とか色々ありますから、いろんなことを混ぜ込んでみてもいいんじゃないかと思います。博物っていうのは、どういう意味合いになるのかちょっとわかりかねます。

(室井学芸員)

博物館の歴史展示ということに関しては、芦屋の何十年、何百年、何千年と積み重なってきた歴史を知ることによって「芦屋の街というのはこういう街なんだ」という一つの、芦屋の街、地域が持っているアイデンティティ、特徴を知ることによって、地域の人が「自分の街はこういう街なんだ」ということを色んな人に言えるっていうことも目的の一つにあると思います。また、今回の勾玉展示において、「実際こういう風に天皇陛下の即位の時に使われていますよ」と紹介した看板を立てたりしましたが、実際に展示品がどんな風に過去に使われていたかを知ることによって「ものを深く考えていく力」を養うことも、歴史の展示の中には一つ大きな役割として意味合いを持っているかなと僕は思います。未来に向けてという展示の方法は、「こんなことができる、こんなこともできる」という案はすぐには出せませんが、単に昔からの歴史を流れに沿って展示するだけではなく、こういうものを知ることによって、現代では、こういう風に繋がっていけるといったような、物事を考える力を養っていくというアプローチに繋げていく機会を作れたらと思います。ずっと常に同じものを並べていたら、お客さんはどんどん来なくなりますし、飽きというものは人間誰でもあると思いますので、変化をつけて多くの人を楽しめる展示を考えていきたいと思います。

(安部委員)

去年の夏にイベントをされた時に、濱之町の地車が来ていたじゃないですか。その時に思ったんですが、その地車って結構子ども達は参加しているんです。お神輿があったりとか。子ども達に来てもらって、美術的なものもそうですけど、歴史的なものも見てもらおうと思ったら、子ども達が普段から馴染んでいるような地車とか、そういう内容で考えても面白いかなって思います。地車って一台一台彫刻も違うし、幕を作る職人も違うわけですよね。歴史的に調べるのは難しいところがあるかもしれませんが、子ども達が普段の生活の中から興味があるようなところを持ってきたら、結構来ると思います。山手の子なんか地車する子が多いので、「〇〇町の地車の彫刻は…」って結構知っている子もいるんです。だから、その地域地域で参加する・参加しないはあるんですけど、子ども達の興味があるような歴史的な内容、そういうところに視点を向けて探してみてもいいかなと思います。

(星野委員)

今回の展示説明の冒頭に、学芸員さんが「美術って、取っ付きにくいよね」ってよく言われるので、今回は、少しでも取っ付き易い様に、「近代を題材にしました。」と言われてましたが、歴史でも同様な工夫は大事だと思います。イメージの湧き易い近代の「昔のくらし展」辺りを取っ掛かりにして、歴史を遡るとか、子どもの関心が高い地車を取っ掛かりにするのも一つの手だと思います。

(若林委員)

常設展をするとかね。地車を1基常設展示としておくとか。

(岡副会長)

歴史のことで、今のお話じゃないんですけど打出焼の所蔵があれば、ご寄託品でも個人所蔵でも構わないんだけど、やっぱり芦屋ならではの特殊性があるんですよ。そういう工芸的に見るものがなくて、常設展示がいわゆる文書的なものに覆われているという気がしました。それから、親子向けの展示は良いんだけど、「常設展示の作品をじっくり見てね」っていうところを一部でも入れておかれた方が良かったかなって思います。美術品を見に来るのは、全部が子どもと親子連ればっかりじゃなくて、芦屋に来たから芦屋の美術博物館に来ようと思った方が、こういう企画展示だったら、芦屋の小出檜重にリスペクトがあるとか、吉原治良に対するリスペクトとか、この美術博物館はこの作家とかっていう。小磯美術館だったら、必ず小磯良平の作品を、特別展をやっても小磯良平作品を絶対出すんです。他のところは企画でやっているけれども、1・2室は企画展をやるとかっていう。我々は展示屋なんで、そういう風に思ったんですよ。だから、子ども向けの企画のところと、常設で見てもらうのと。それから、例えば歴史展示だったら、歴史的な名品はここで見てもらうとか、そういう棲み分けを求めたいと思ったんです。

(藪田会長)

何か最後にこの運営基本方針の事柄でおっしゃりたい方は、おっしゃってください。

(安部委員)

(4) 子どもへの教育のところで、全部の学校が美術博物館の方へ足を運べたらっていう風に何回か前の会議の時に話が出ていたんですけども、市の造形教育展にみんなが行こうと思ったら、丸半日くらいかかるんですよ。朝一で出て、給食までに帰ってこないといけないので。それで、何回か前の会議の時に、例えば、片道でもいいからバスを出してもらえたらって話とかも出ていたので、そういうところも検討していただけたらなと思います。時間割をやりくりして、それぞれの学校と調整して、この日のこの時間についてかなり前から設定して動かないといけないですし、学年でも調整してやっていかないといけないので。片道歩いても片道はバスを出して欲しいなと思います。スポーツの行事ではバスが出ているんですね。そういう面もあり、美術の行事でもバスを出してもらえたらと前もお話をさせていただいたので、考えていただけたらなと思います。

(事務局：茶嶋)

財政的なところになってきまして、かつその時の展示がやっぱり子ども達がわかるものでない

と難しいというところがあります。プロジェクトチームという庁内組織があって、そこで「教育のまち芦屋」をどうしていくかという話があった中でも、なかなかカリキュラムが難しいとこのことで、すぐに実現というのは難しいのかなと思います。

(安部委員)

造形教育展とか個人的に出品している子は家族で行くんですけど、そうじゃない子はなかなか機会がないといかない。小さい街であっても、色んな学校でそれぞれで全然違うことをしたりとか、作品とかを出しても、連れて行こうと思ったら、そういう風な面があれば助かるなというのがありますので、是非頑張ってもらいたいと思います。

(藪田会長)

事務局として課題を確認しておられるということなので、もう少し頑張ってもらいましょう。飯尾委員，どうぞ。

(飯尾委員)

学校教育との連携の話ですが、私どもの美術館では、教員を対象に解説会を、年度の初めと半ばに美術の先生などにお忙しい中でお越しいただいて、その年度の展覧会の説明とか、こういう教育プログラムがありますよという説明会を開いたりしております。それで興味を持ってくださった美術の先生などは、予定が合えば春とか、春は難しいですということであれば秋・冬等の期間にちょっと学校から来ていただいたりしています。「教員対象解説会」と私どもは呼んでいますが、美術の先生を始めとして、美術教育に関心のある先生に対する説明会です。あとは、小学校とかクラスとか学年単位だけではなくて、美術部の見学も夏休みに3人・5人・10人とか、そういう単位ですけれども来られます。美術部は、中学生とか高校生が多いですけれども、見学の申し込みが割と多いので、そういうところも視野に入れられれば良いのかなと思いました。

(藪田会長)

(4) の子どもへの教育のところですね。

中島委員いかがですか。

(中島委員)

我々は今800人くらい高齢者がいる集団なんですけれども、こういう風な人たちも絵画に興味を持っていて、うちも年に1回美術展を芦屋市民センターでやっているんですけども、日頃こういう風なチラシ等が身近にあったら興味が湧くし、配ろうと思ったらいくらでも配れるんですよ。毎月300人くらいの方が集まる講演会をやっていますので、そこでこういう風なチラシを配ると、効果が出てくると思います。こういうチラシってあんまり我々のところでは見る機会がなかったものですから、事前に我々のところに届けていただくと配ることができます。今度の65回芦屋市展，こういうのも市民センターに置いてあるんですか。あそこに色んなチラシがありますけど。

(事務局：茶嶋)

はい。ポスターも貼っております。

(中島委員)

我々のところにも配ってもらえると、気が付く人も何人か出てくると思うので、少しは役立つんじゃないかと思います。活用してください。

(事務局：茶嶋)

ありがとうございます。

(藪田会長)

はい、ありがとうございました。

私からは一つだけ、この運営基本方針の(2)サービスの向上というところですけども、「あしやつくるば」とか「まなびはく」とかお庭を含めた会場を使うということをよく意識しておられて、それを我々の業界では、「ユニークベニュー」という言葉を使っているんです。博物館というのは、要するに中を見せるだけじゃなくて、外も含めて広場全体を特別な場所、非日常的な場所にしようという考え方がありますので、それを「ユニークベニュー」という言い方をしています。ベニューというのは会場という言葉ですが、もちろんコンサートもあっても良いでしょうし、あるいはお祭り広場になっても良いということだと思います。ここにあるイの部分でやっておられることはそういうことなのかなという気がいたしました。その辺も一つの評価基準として意識しておいていただけたらなと思います。

では、もう時間になりますので、議題(2)の「平成31年度事業計画」についての議論は終わらせていただいて、(3)「その他」のところ、事務局から説明はありますか。なければ終了としてください。

(事務局：竹村)

本日はどうもありがとうございました。「その他」の議題はありません。本日皆様の経験・知識・立場の視点からいただきました意見は、こちらの方で総括いたしまして、今後の運営に生かしていきたいと思っていますので、今後ともどうぞよろしく願いいたします。本日はお忙しいところありがとうございました。